Case Study
ケース・スタディ

時代のニーズに対応した
文書情報マネジメントを紹介

2012 JIIMA ベストプラクティス 受賞事例

海洋の歴史的資料等の保存と公開

一般財団法人日本水路協会
調査研究部長
明石 龍太（あかし りゅうた）

先進的文書情報マネジメントシステムを導入し、顕著な効果を出している優秀事例を称えるJIIMAベストプラクティス賞。2012年受賞した団体の事例からここでは貴重な歴史資料の保存と公開の事例を紹介します。

はじめに

平成22年から２年計画で日本財団の支援を受けて「海洋の歴史的資料等の保存および公開」事業を海上保安庁海洋情報部（以下海洋情報部）と当協会の共同研究として実施しました。

明治４年兵部省海軍部内に水路局として設置された海洋情報部には、明治初頭から現在に至る間に海図を作成するために行った水路測量、海象観測、水路図誌等に係る膨大な調査資料や成果品が保管されています。

これらは、歴史的資料になり得るにも関わらず、その多くが一般に公開されていなかったため、文化的遺産として活用がなされていませんでした。そのため、これらの各種歴史的資料を精査・電子化し、検索システムを構築してインターネット上で公開しました。多くの人に閲覧してもらい、海洋への関心を高めてもらうことを目的に実施したものです。

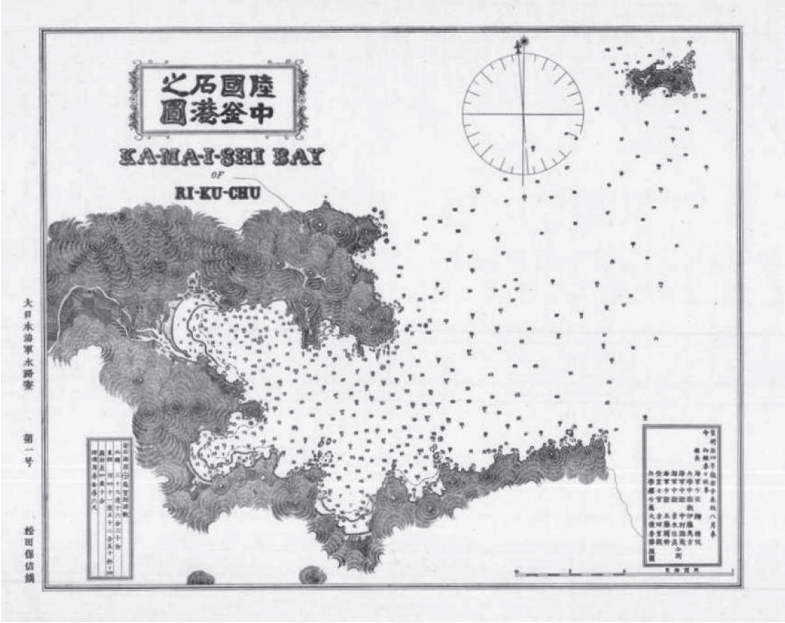
本事業で電子化した資料は、昭和20年末までの約13,500点（うち800点は海洋情報部以外の資料）で、全ての資料は、海洋情報部資料館で閲覧が可能です。また、我が国で最初に刊行された「釜石港」の海図をはじめとする明治初期に刊行された海図やこれらの海図を作成するために使用した伊能図謄写図など主要な資料約190点はインターネットでの閲覧が可能です。

「海図アーカイブ」
http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KIKAKU/kokai/kaizuArchive/index.html

旧版海図等の資料の調査と調査結果

海洋情報部で保有している資料

①旧版海図については、海洋情報部が作成したリストを基に、重複や現存していない資料の調査を実施し、4,188枚について、海図番号・資料名・刊行年・縮尺・図格左下右上の経緯度などのメ



明治５年９月刊行の「陸中國釜石港之図」

タデータを付与したリストを作成し、電子化・マイクロ化を行いました。

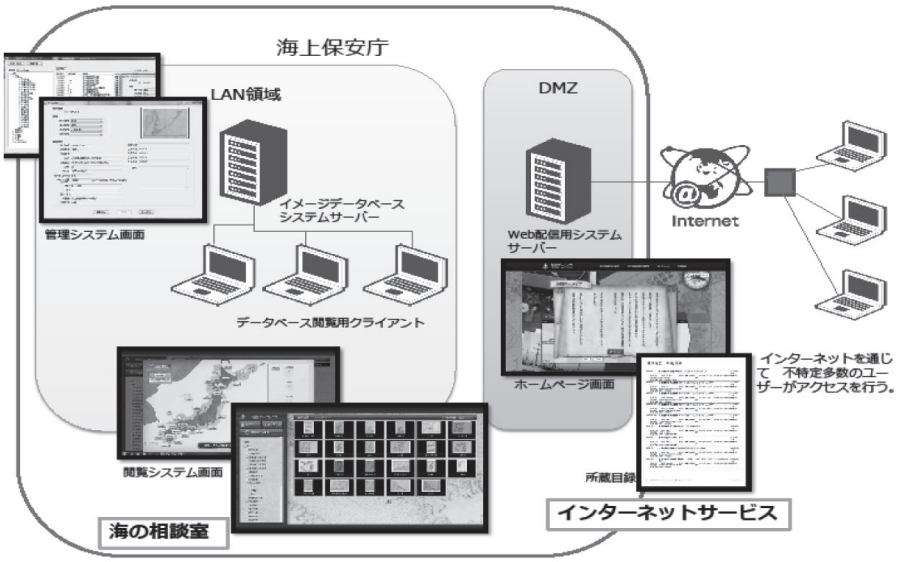
②旧版航空図、古文書、測量原図、旧版水路誌などはリストが存在していなかったため、資料確認を行い、旧版航空図249枚、古文書824冊、測量原図614枚、旧版水路誌356冊、原点図、岸測図、錘測図等の測量資料6,504枚等について、番号・資料名・刊行年などのメタデータを付与したリストを作成し、電子化・マイクロ化を行いました。

海洋情報部以外で保有している資料

大正12年の関東大震災の大火と昭和20年の東京大空襲によって、海洋情報部（当時は水路部）が保有していた資料の多くが焼失していました。そこでインターネットを通じ、国立国会図書館、国立公文書館および大学機関などでの保有確認を行い、内容によっては訪問（13機関）と電話（12機関）による調査も敢行しました。結果、約800点の資料について、メタデータを付与しリストを作成、電子化・マイクロ化を実現しました。

大きさの異なる大量の図面、資料の電子化

A0までの規格サイズの画像の場合は原寸サイズで入力し、それを超える場合は、分割で画像データを作成しました。分割画像は画像加工をして１つの画像データを作成し直すなど、さまざまな図面、資料の電子化には、膨大な時間を要しました。



システム構成

インターネット配信システムと資料検索システムの整備

おもだった資料をインターネットで閲覧することができる「インターネット配信システム」と全ての電子化資料を閲覧することができる「資料検索システム」（オフライン）の二つのシステムを整備しました。

両システムは高画質画像を瞬時に閲覧可能なズーミファイ方式を採用しました。

インターネット配信システムを利用した資料は、冒頭で述べたように海上保安庁海洋情報部のホームページ「海図アーカイブ」で閲覧が可能です。

また、全ての資料については、同部の海洋情報資料館[1]（東京都江東区青海）と全国の管区海上保安本部海洋情報部「海の相談室」で閲覧可能です。

なお、インターネット配信システムをPRするために全国3,300ヵ所の図書館等に同システムと同一のデータが収録されているDVDを提供しました。

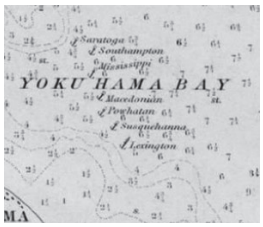
本事業で新たに確認された主な資料

本事業を実施している際には、新たな資料も確認されています。主なものについて紹介します。

手書きの古地図

初代の水路局長・柳楢悦が長崎海軍伝習所から帰藩した1858年（安政５年）以降に作成された地図。この地図は、江戸時代前期に作成された「伊勢国割絵図」を手本に描かれた図と推察され、師の村田佐十郎恒光が作成した携帯用地図「伊勢之国細見図」に反映されたと思われる。

米版海図183号



アメリカ東インド艦隊司令長官ペリー提督が来日した際に測量した資料を基に1853年（嘉永６年）に作成された米版海図。旗艦「サスケハナ」はじめ７隻の艦船の投錨位置が記載されている。

1　http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KIKAKU/kokai/kokai.htm

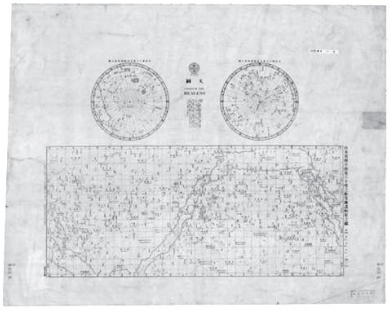
2012 JIIMA ベストプラクティス 受賞事例

宮古港水深図

明治４年測量艦「春日」艦長柳楢悦は北海道沿海測量を委任され、イギリス測量艦「シルビア号」とともに北海道各地の測量を実施した。柳楢悦は北海道からの帰途、「春日」単独で東北・三陸沿岸の「釜石港」「宮古港」の測量を行い、その時の海の深さを測量した成果物。これを基に、明治５年10月に我が国では２番目となる海図「宮古港」が刊行された。

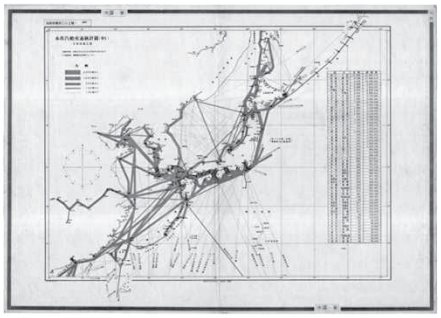
天図（明治24年１月刊行）

全天球の季節ごとの星座の位置を記入したもので、夜の航海に使用される。



本邦汽船交通統計圖

機密性が最も高い軍機図として刊行されている（昭和８年12月に３図、昭和14年３月に１図、計４図刊行）。これは我が国が昭和８年３月に国際連盟を脱退して国際的に孤立していく世界情勢の中で、自国の商船を保護することを目的に航路を把握するために作られたものと推察される。



特別展示の実施

電子化した海洋の歴史的資料を実際に見て手に触れてもらうことで、より一層海洋に対する理解を深めていただこうという主旨で神戸と横須賀において、それぞれ９日間の特別展示を実施しました。

特別展示のテーマは本事業の主目的が明治初頭に刊行された海図の電子化であることから「維新と海図」とし、昨年（平成23年）が 柳 楢悦初代水路局長・部長の没後120年に当たっていたことからサブタイトルを「柳 楢悦 没後120周年記念」としました。

主な展示物は、海図の解説と変遷史、伊能図の紹介、明治初頭に刊行された主な海図、我が国で初めて作られた海図「陸中國釜石港之圖」の実物と銅板の印刷原版、「元和航海記」など約15点の古文書等です。

神戸会場

一般社団法人神戸港振興協会の後援をいただき、神戸港中突堤中央ターミナル「かもめりあ」２階展示場で平成24年２月25日（土）から３月４日（日）の９日間実施しました。前述の展示物のほか、明治初期に英国水路部が測量し、昭和44年に我が国に寄贈された「鳴門および付近」および「兵庫及神戸錨地」や神戸港の海図の変遷などを展示しました。

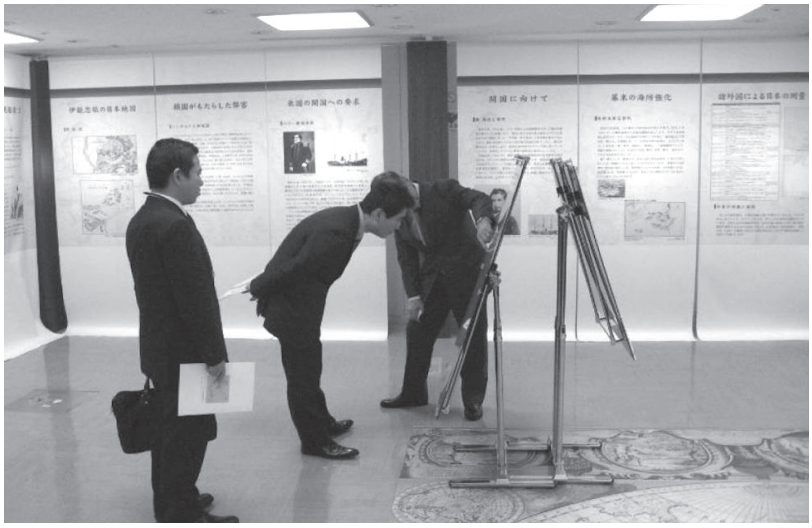
開催期間中は雨の日が多かったにもかかわらず会場がオープンスペースとなっていたことが幸いしてか、1,087名の入場がありました。

横須賀会場

横須賀市役所、横須賀教育委員会の後援をいただき、横須賀市産業交流プラザ研修室で平成24年３月10日（土）から３月18日（日）の９日間実施しました。

会場床面には、17世紀末にフランスで刊行された世界図を拡大し展示しました。

また、前述の展示物に加え、ペリーが測量した東京湾の米版海図、昭和５年に作成された横須賀軍港の５枚の図（元治２年、明治20年・40年、大正12年、昭和５年）を展示し、入場者数は440名でした。



床面に世界地図を展示した横須賀会場